

白 神 通 信



藤里点描

[contents]

- ◆ 岳岱自然観察教育林 2025 秋 P2
- ◆ 小岳山頂直下でのハバチ類の調査 P4
- ◆ 藤里学園 1 年生校外学習の受け入れ P6
- ◆ 藤里町民祭 2025 への出展 P8
- ◆ 藤里学園 8 年生による ブナ林モニタリング P11
- ◆ 岳岱自然観察教育林 冬ごもりへ P12
- ◆ 白神山地世界遺産地域 巡視員会議（秋田県側） P15

岳岱自然観察教育林 2025 秋

藤里町にある岳岱自然観察教育林に通じる県道西目屋二ツ井線は、昨年（令和6年）から法面工事の為、紅葉シーズンの10月から11月上旬を除き通行止めとなっていました。このたび工事が終了し、令和7年10月1日に通行止めが解除となりました。（当面の間、青森県側への通り抜けは出来ません、また、秋田県側は11月上旬から冬期通行止めとなっています）

当センターと米代西部森林管理署では、今シーズンの通行止め解除を見越して、工事期間中、県道の通行許可をもらい岳岱自然観察教育林内の歩道等の整備を数回実施してきました。

通行止め解除当日の10月1日、職員が改めて歩道等の点検と来訪者確認のため現地に赴いたところ、町の職員や業者の方も町で管理する施設の点検を行っていました。

当センター職員は、バリアフリー歩道の落葉の除去、シンボルツリーである「岳岱大ブナ」と「こまいぬシナノキ」に誘導するためのロープの再確認と小看板のリニューアルを行いました。

写真でも分かるように、ブロワーで落葉を除去した歩道は気持ちよく散策できる状態となり、リニューアルした小看板も遠くから見やすく、利用者の利便性が向上しました。



歩道の落葉除去（10.1）



リニューアルした案内看板

このほか、展示施設の清掃やパンフレットの設置も行い、来訪者を受け入れる準備が整いました。

平日とあって、駐車スペースが埋まるほどの車両とはなりませんでした。お昼前くらいから、ガイド同行の来訪者や白神山地世界遺産地域巡視員の方が数名、今シーズン初めての散策に訪れていました。

県道の通行止め解除から3週間後の10月21日(火)、再び岳岱歩道の点検を行い、厚く積もっていた落葉の除去をブローラーを使って行いました。

この日はあいにくの小雨模様となりましたが、遠く広島から年配のご夫婦が来訪されており、お話を聞くとこれから青森県側の白神山地に向かうとのことでした。

岳岱は白神山地世界遺産地域ではありませんが、遺産地域の雰囲気を身近に感じることでできるブナ林となっています。

令和8年度は、工事による県道の通行止めは行われなことから、新緑の季節から散策を楽しむことができますので、是非足を運んで頂きたいと思います。

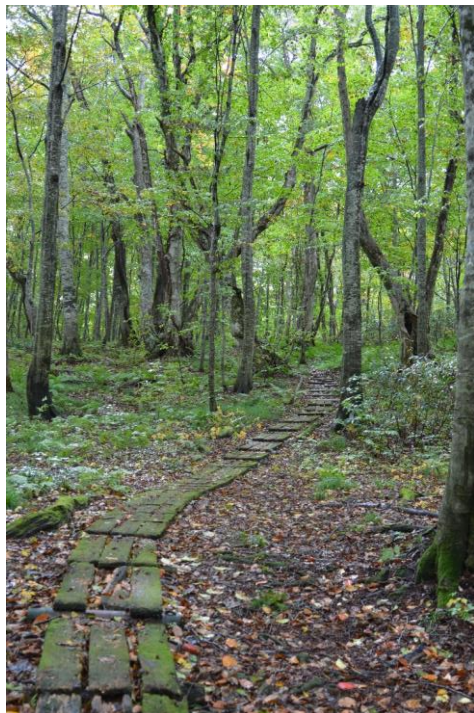


歩道の落葉除去 (10.21)



散策されるご夫婦

10月21日(水) 撮影



雨で緑が鮮やかに (10.21)

11月5日（水）撮影



晩秋の岳岱 有終の美を飾る彩り（11.5）

小岳山頂直下でのハバチ類の調査

当センターでは毎年10月頃、小岳山頂付近に生育するハイマツ群落でハバチ類の調査を行っており、今年も10月17日（金）に実施しました。

この調査の目的は、ハイマツの葉を食害するマツノクロホシハバチの防除を検討する基礎資料とするために実施しているものです。

小岳登山道入り口までは、林道を約20キロ走行しますが、今年8月上旬の豪雨により林道の法面が崩落し通行止めの措置をしたため、登山道入り口までの約2キロ、林道を歩くことになりました。



ドローンによる空撮



林道上への落石

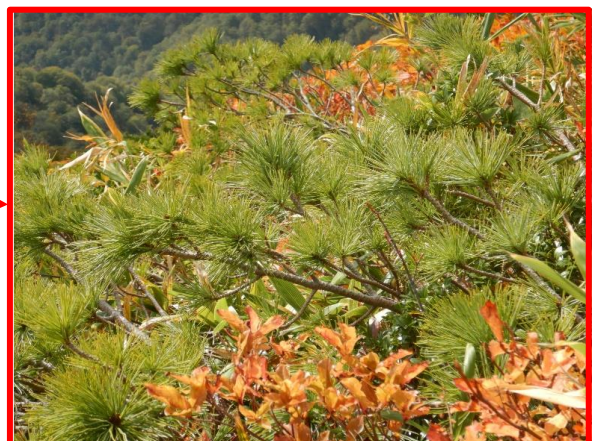
登山を開始して約 1 時間半、ハイマツ群落が見えてきたことから、登山道両側のハイマツの状況を目視のほか写真を撮りながら確認します。少し離れた場所については望遠で撮影、さらに離れた場所は双眼鏡を使って確認します。



双眼鏡で遠望

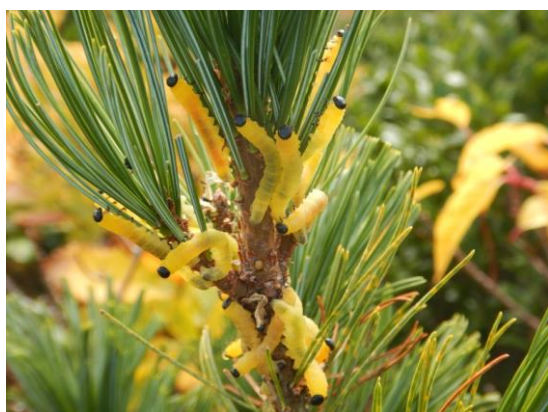


双眼鏡で遠望と近景の撮影



登山道沿いの写真（左）と同箇所の拡大写真（右）

今年は、ハイマツ群落のほぼ中間地点、登山道沿いのハイマツ 1 本の枝に、マツノクロホシハバチの幼虫が確認されました。枝の先端部分の葉に 20 匹ほどが寄生しており、一部は枯れていましたが、食害は先端のみにとどまっております、周囲のハイマツや群落全体に影響を及ぼすものではありませんでした。



マツノクロホシハバチ（幼虫）の寄生



食害による枝先端部の枯れ

令和元年から6年まで撮影された写真を見ると、ハバチの発生は無いことが確認されています（R3・R4は林道通行止めにより調査不実行）。

過去には、ハイマツの枯れが目立つほどの食害があり、関係者で現地確認を行った際には、「寒冷期に向かうことから、これ以上被害は拡大しないと判断し様子を見ることにした」という経緯がありました。

今回についても、1本のハイマツの先端がわずかに食害されているのみであることから同様の判断とし、来年はより注意深く調査を行うこととします。

話は変わり、小岳登山道入り口には登山者や巡視員が休憩などで利用する「巡視管理棟」があります。例年であれば11月上旬に冬期閉鎖を行います。今シーズンは林道が通行止めとなったことから、登山者による巡視管理棟の利用はないと判断し、ハバチの調査終了後、巡視管理棟の閉鎖を行い、雪を迎える準備が整いました。



巡視管理棟の冬期閉鎖

藤里学園1年生 校外学習の受け入れ

令和7年10月22日（水）藤里学園1年生12名が当センターを訪問し、小木工品の制作体験を行いました。

学校からの校外学習計画には、「たのしい あき いっぱい」という単元で、「ふるさとの秋の自然に触れ、まつぼっくりやどんぐりなどの材料を探したり、工作を体験したりする。」という目的が書かれており、大人でも楽しくなるような内容でした。

児童たちは、始めに藤里町の名所「峨瓏の滝」を見学、その後山あいの温泉施設のある周辺でまつぼっくりやどんぐり拾いを行ってから当センターへという行程となっていました。

予定の11時、児童たちがマイクロバスでセンターに到着すると、「こんにちは〜」「よろしくお願ひしま〜す」とかわいい元気な声が響きました。

どんぐり拾えた?と聞くと何にも無かった〜との答えが。これでは冬眠前のクマも困るよなあ と考えさせられました。

最初に展示室の見学から。山で使う道具や動物の写真を見るたびに「わあすご〜い」の連発で児童にはとても新鮮なものに見えたことと思います。

空中写真の立体視が珍しかったらしく行列ができるほどで、ここでも「お〜 すごい」の声。



展示室の見学



みんなで ごあいさつ

いよいよ木工品制作に。4人一組の班になり、まずは材料選びから。様々な材料を使って思い思いの形にしていく発想に大人は脱帽です。

職員は班ごとの机に分かれて、制作の手伝いをします。特に気を付けたのは、部材の接着を熱とプラスチックで行う「グルーガン」という器具の使用について。児童が使う際には目配りを、難しい箇所には職員が手伝いを という感じで、あっという間に予定の時間が来ました。



どれにしようかな



制作の様子

児童たちから作品を見せてもらい、帰ったらお家の人に見せる、自分の部屋やリビングに飾ると笑顔いっぱい、職員も楽しい時間を過ごしました。

藤里学園では、1年生の時から地元の豊かな自然に親しみ、小木工品ではありますが、木の良さに触れ、学年が上がると白神山地について学習するという流れになっているようです。これらの授業を通して、将来子供たちが、地

元の良さを発信できるようにになれば嬉しいな と感じたところです。



制作の様子



完成したよ



素敵な作品が完成



藤里町民祭 2025 への出展

(白神のめぐみフェスティバル)

令和7年10月26日(日)藤里町主催の「ふじさと白神の恵みフェスティバル」が開催され、当センターも業務の紹介や小木工品制作などのコーナーを設けイベントに参加しました。

町では、これまでイベントの名称を「藤里町民祭」として開催していましたが、町民のみならず町外からもたくさんの来客を願って、今年から「ふじさと白神の恵みフェスティバル」と名称を変えて開催しました。

フェスティバルは3部構成で、主会場の体育館では町民の作品展示、幼稚園児による踊りや警察音楽隊の演奏、県北のポップスデュオのライブ、体育館の外では地元の高山太鼓や駒踊り、キッチンカーやフードコート、働く車の

展示もあり終日賑わいました。

当センターでは今回、昭和 30 年代頃と思われる林業の作業風景の写真を展示したところ、懐かしいと見入る方が多く、スマホで撮影する姿が見られました。たまたま町長さんも通りかかり、「森林鉄道で藤里から二ツ井まで行ったっけなあ」と感慨深げにお話されていました。



展示の写真をスマホで撮影



町長さんも懐かしそうに鑑賞

このほか、木の枝やどんぐりなどを使って小木工品を制作する「もっくん制作コーナー」と白神山地周辺地域で撮影した動物や植物の写真を缶バッチにするコーナーを設けました。

缶バッチコーナーの写真は、昨年までのものをリニューアルし、センサーカメラで撮影された動物の写真や若手職員が巡視などの際に撮りためた写真を 24 種類、実際に缶バッチにして見本として並べ、出来上がりをイメージしやすい展示としました。



当センターのブース



缶バッチの見本

どちらのコーナーも、ご年配の女性の方が多く興味を示し、木工品コーナーでは職員のアドバイスを受けながら制作し、出来上がった作品を見ながら満足そうな笑顔に。缶バッチコーナーでは、どの写真にしようか時間をかけて選んでから制作し、出来上がったバッチを早速服に付けて笑顔に。

このような機会を通じて、当センターの役割と共に白神山地の豊かな自然、木の温かみを感じてもらえればと思っています。



缶バッチの見本に見入る方



缶バッチ制作



もっくん制作



缶バッチ 一番人気 (タニウツギ)

藤里学園8年生による ブナ林モニタリング

藤里町立義務教育学校藤里学園の生徒が白神山地について学ぶ「藤里町ブナ林モニタリングプロジェクト」の現地調査が10月29日（水）、岳岱のブナ林で行われ、8年生9人がブナなど樹木の幹回りや状態を調査しました。

調査には本プロジェクトの講師「国立研究開発法人 森林研究・整備機構」の中静先生のほか、当センターから3名、環境省4名、藤里町役場3名などが参加しました。

当日は寒波により季節外れの雪が降り、調査の実施が危ぶまれましたが、30分ほど遅れての開始となりました。はじめに、中静先生よりプロット内の立木の樹種の見分け方や、幹回りを測る際の注意事項などについて説明がありました。

その後、生徒1～2人に職員ら2人が加わり、5つの班に分かれて班ごとに振り分けられたプロット内の区画で調査が始まりました。生徒は調査する区画に移動して、調査番号の立木を探し、樹種と状態を確認してから幹回りを計測していました。幹回りを測る担当、野帳に書き込む担当を決めて役割分担し、調査木を皆で協力し合いながら探したため1本1本スムーズに調査が進められました。



中静先生（中央左）による調査内容の説明



班員で役割分担しながら調査

プロット内の立木はほとんどがブナですが、それ以外の樹種もわずかに生育しています。サポートしているはずの大人の方が「何の木だろう…」と思っている間に生徒たちが「これホオノキだ！」と即答する場面もありました。子供たちの吸収力に脱帽です…。

調査後、プロット内のブナを教材として「ブナ林の更新」について、中静先生から「巨木が倒れ、林床の小さなブナが育ち、ブナ林が世代交代していく過程には数百年単位の時間がかかる」などの説明があり、生徒たちは驚いた声を上げていました。また職員も、ホオノキの種子について先生から解説していただくなど、学びにあふれた時間となりました。

岳岱自然観察教育林は一年を通して（県道の冬季通行止めを除く）観光で訪れることができる場所です。ぜひ皆様も訪れた際には、「観る」「遊ぶ」だけでなく「学ぶ」というところまで視点を深めてみてください。森林は不変であるように見えますが、絶えず変わり続けています。大きな森の小さな変化に気づけたとき、新たな自然の楽しみ方が見つかるかもしれません。



中静先生からブナの更新について説明



大人たちも興味津々

岳岱自然観察教育林 冬ごもいへ

藤里町の岳岱自然観察教育林に通じる県道西目屋二ツ井線は、令和7年11月12日（水）午後4時から冬期閉鎖に入りました。

これと同じくして、岳岱自然観察教育も長い冬ごもりに入ることから、同日の朝、歩道沿いに設置したロープや案内看板を撤去するため現地に向かいました。

前日の雨が雪になったのか、当センターから藤里駒ヶ岳を望むと、山頂付近が白くなっていたので、きっと岳岱も雪景色だろうなあと、ある意味覚悟を決めてハンドルを握りました。

県道から黒石林道に入るまでは晩秋の景色でしたが、しばらく進むと徐々に周りが白くなりはじめ、晩秋の風景から一転して冬の景色となり、先行して入った車の轍を頼りに、慎重な運転に心がけました。

岳岱の歩道入口には10センチほどの積雪があり、本格的な冬の到来を感じさせました。

センター職員3名の他、2つの森林事務所から4名が応援に来てくれ、作業内容の確認や安全対策を打合せ後、雪を踏みしめて作業箇所に向かいました。

岳岱のシンボルである「岳岱大ブナ」や倒伏した400年ブナの周囲に回し

ているロープの取り外し、案内看板の撤去、展示施設内の写真パネルの取り外し、ジオラマの冬囲い、などの作業を手際よく行いました。

作業の様子などは、以下の写真で紹介します。

雪の中ですが、今年最後の散策に県外の方や地元の方が訪れていました。

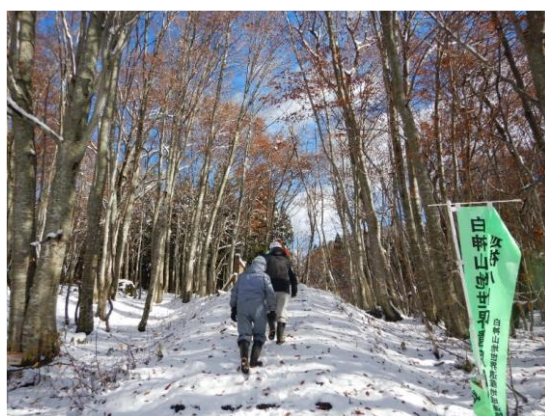
散策している方からは、「今年は雪が早いな。」「こんなに降っているとは思わなかった。」「雪の中だけれど晴天なので気持ちいい。」などの感想が聞かれました。

県道西目屋二ツ井線の冬期閉鎖解除予定は、令和8年5月15日（金）9時となっており、残雪と新緑が楽しめるかと期待しています。

岳岱自然観察教育林 冬ごもり カメラスケッチ



岳岱は雪景色に (2025. 11. 12)



作業箇所に向かう後ろ姿



作業箇所に向かう勇姿



積雪は10センチほど



杭からロープを外す



ロープ巻取り



ロープ巻取り（8の字で）



説明看板の冬囲い



展示施設に感謝をこめて



ジオラマの冬囲い



来春 新緑の頃にまた会いましょう



お疲れ様でした 気を付けて帰りましょう



白神山地世界遺産地域 巡視員会議(秋田県側)

令和7年12月3日(水)、藤里町総合開発センターにおいて、白神山地世界遺産地域巡視員会議が、巡視員16名、主催者である東北森林管理局のほか、関係機関として東北地方環境事務所、秋田県自然保護課、藤里町など合わせて30名の参加で開催されました。

始めに、主催者である東北森林管理局計画保全部長から「巡視員のみなさまへ今シーズンの活動に対するお礼と、各行政機関が今年度実施した事業内容の情報共有の場であること、今年8月、3年ぶりに開催された白神山地世界遺産地域の管理に関する懇談会の概要、それらを踏まえ、本会議では、皆様が巡視活動を行って気づいた点や各機関の取組に対してのご意見などを頂きながら、今後の活動に取り組んでいきたい」とのあいさつの後 議事に入りました。

各機関から今年度の事業報告、巡視活動の状況、合同パトロールの実施結果、核心地域への入山状況、樹木損傷等の報告、ニホンジカ等の確認情報等について、その他として、白神山地世界遺産地域周辺での、松くい虫・ナラ枯れ被害の発生状況と防除について、クマ関連の注意喚起について資料に基づき説明を行いました。

また、大船渡で発生した大規模林野火災について消防庁と林野庁が検証を行い、気象条件により市町村が、林野火災注意報や林野火災警報を出すことになったことが事務局から口頭で説明がありました。

質疑応答では、青森県側の合同パトロールに一日巡視員として参加した学生から「万人向けでない」という感想が寄せられておりどのような募集内容か気になったところ という質問があり、これに対し事務局から、応募条件は添付資料のとおり示しているが、体力や装備、白神エリアということを理解したうえで参加してくれる方がいてくれれば良いと考えている と回答。

意見交換で巡視員から、一般の方がマナー啓発のチラシを目にする機会は少ないと思うので、歩道入口に分かり易い看板などを設置してはどうか、これについて事務局で相談すると回答。巡視活動の事前届出について実施率の低さ解消について、これまで同様、前もっての届出の他、直前の場合は電話や留守電も可能と回答しました。

意見交換では、事務局である東北森林管理局から関係機関や巡視員が情報共有できる体制整備の提案を行ったところ、白神山地世界遺産センター藤里館から現在実施している情報共有の内容について紹介があり、事務局から、来年の実施に向けて取り組むことで回答しました。

引き続き、巡視員のみなさまや関係機関と連携して活動を行っていきます。



会議の様子



各機関からの説明



各機関からの説明



質疑応答・意見交換の様子



(発行) 林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター

TEL: 0185-79-1003

「白神通信」QRコードはコチラ

<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/huzisato/>



東北森林管理局広報
「みどりの東北」
QRコードはコチラ →



藤里森林生態系保全センター
ホームページ QRコードはコチラ →

